



重要文化財 二河白道図

監修・解説 石上 善應

絵で学ぶほとけの教え

浄土への道を求め
白道を渡る旅人の説話を
描いた『二河白道図』を
イラストで分かりやすく
解説!



絵で学ぶほとけの教え

二河白道図

同朋舎新社



目次

1	『二河白道図』・絵解き―場面と人びと―	6
2	二河白道図とは？	
	善導大師の教え	10
	《選択本願念仏集》	12
	譬えの意味 彼岸(浄土)への道	24
	編集部のちよっと寄り道コラム① 『日本の浄土思想形成に影響を及ぼした他の作品』	34
	『他にもある！二河白道図の違い』	38
3	光明寺本 二河白道図 読み解くと？	42
4	なにが描かれているの① 二河白道―浄土に渡る細い道―	46
5	なにが描かれているの② 此岸(穢土)―煩惱にまみれる世界―	52
6	なにが描かれているの③ 彼岸(西方浄土)―極楽・さとりの世界―	56
	編集部のちよっと寄り道コラム③ 『三悪道が満ちている世界』	60
	編集部のちよっと寄り道コラム④ 『阿弥陀三尊と極楽浄土(宝楼閣)』	61

△解説者▽ 略歴

石上 善應 (いしがみ ぜんのお)

一九二九年小樽市生まれ。
 一九五六年大正大学大学院文学研究科
 仏教学修士課程終了。大正大学教授、
 韓国東國大學校碩座教授を経て、現在、
 大正大学名誉教授、淑徳短期大学学長、
 浄土宗総合研究所所長。

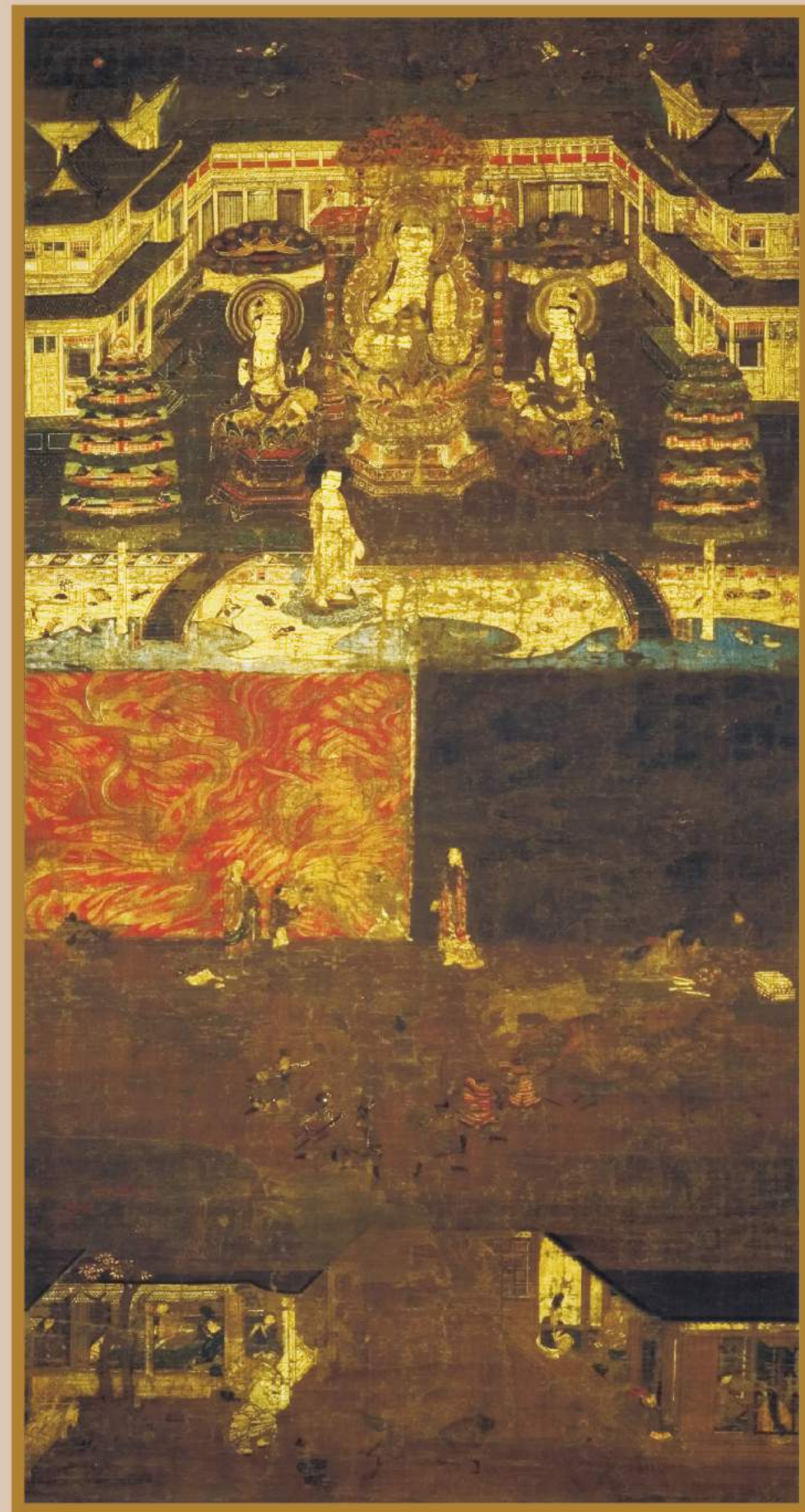
著書に
 『東の智慧 西の智慧』(筑摩書房)
 『仏所行讃』(大蔵出版)
 『弥勒菩薩―永遠の明日』(NHKライブラリー)
 『おらかに生きる―法然』(中央公論新社)
 など著書多数。

1

二河白道図

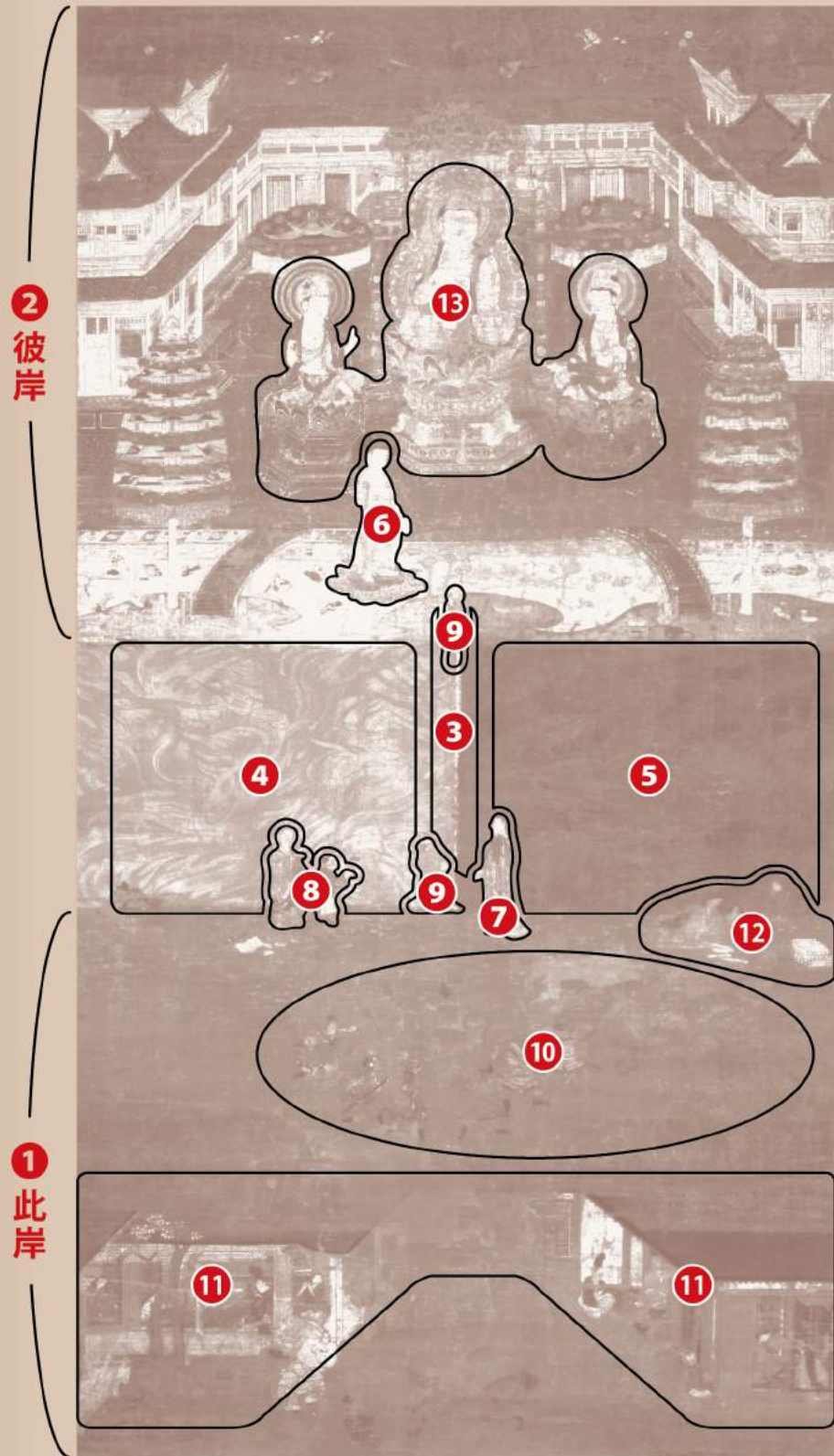
絹本著色
掛幅装 一幅
縦二八・六cm、横六一・四cm

鎌倉時代
重要文化財
京都府 光明寺蔵



絵解き

場面と人びと



● 法然上人^{せんちやく}『選擇(択)本願念仏集』^{ほん がんねん ぶつしゅう} ※略して選択集とも

『選択集』は建久9年、関白九条兼実の要請により、法然が撰述した2巻16章の論文です。その『選択集』の第8章に三心について述べられています。

仏を信仰する心をもって南無阿弥陀仏を唱えなければいけない。阿弥陀仏の存在を信じるといふこと。三種の心をおこしてすなわち往生する。その三種の心とは、

しじょうしん
至誠心(誠実な心) 疑うことなくこころから阿弥陀仏を想い浄土往生を願うこと。

じんしん
深心(深く信ずる心) 疑いなく深く信じること。

え こう ぼう がんしん
廻向発願心(願往生心) 一切の善行の功德を浄土往生にふりむけ、極楽浄土に生まれたいと願う心。

称名念仏(「南無阿弥陀仏」の名号を口に出して称える念仏)だけが相応の教えであり、念仏の修行のみにすべきと説いている。阿弥陀仏の本願を称名念仏に集約することで、仏教を世間一般に広めることとなり、日本の浄土教において重要な意義を持つ文献の一つです。

南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏



『日本の浄土思想形成に影響を及ぼした他の作品』

編集部 ちょっと寄り道コラム①

● 善導大師^{かん むりょうじゆきやうしよ}『観無量寿経疏』(四巻) ※観経疏とも呼ばれる

阿弥陀の本願によって往生ができるとの教えを説いた、善導大師の代表的な著作。『観経疏』は『観経』を解釈したもので、善導大師の教えが直接に示されています。

『観経疏』が、中国で世間に広まることはありませんでしたが、日本では、法然が教学の根幹とし、そして浄土真宗の開祖、親鸞は称賛している。このように、『観経疏』は日本の浄土思想形成に多大な影響を及ぼした作品の一つです。

